



ハイヤ祭り
どこまで
牛深ハイヤ祭りは

第47回 牛深ハイヤ祭り
4月 20日(金)・21日(土)・22日(日)

天草の春の一大イベントである「第47回牛深ハイヤ祭り」が今年も3日間にわたって開かれます。今号では、昔の写真で振り返りながら「牛深ハイヤ祭」の歴史をご紹介します。

【問い合わせ先】牛深ハイヤ祭り実行委員会(牛深支所内) ☎0963-2111

西海岸の絶景とグルメを満喫！

第27回あったか天草椿まつり



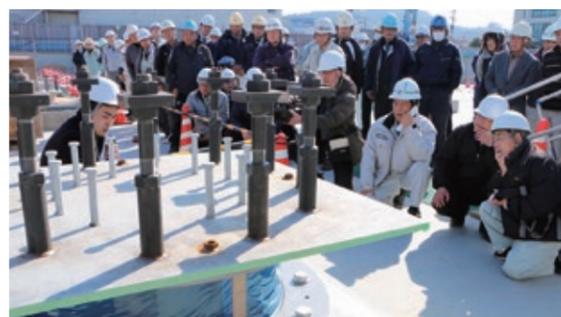
◀景色を楽しみながら海賊鍋を堪能する来場者

3月4日、約2万本のやぶ椿が群生する天草町の西平椿公園で「あったか天草椿まつり」が行われ、約1,300人の来場者でにぎわいました。これは同まつり実行委員会が、椿をメインとした地域おこしと自然への意識を高めたいと毎年行っているもの。

椿油の搾油実演のほかステージイベントやスケッチ大会なども行われ、参加者は、「花の色を色鉛筆で表現するのが難しい」と言いながら真剣に描いていました。

新庁舎建設現場で免震技術を学ぶ

建設業者向け現場見学会



▲設計担当者(左)が設置した免震装置を説明

2月17日、市内の建築士や建設業者を対象とした免震装置現場見学会が市庁舎建設現場でありました。1年後の開庁に向け工事が進む新庁舎は、市内初の免震構造の大型公共施設であり、市内建設業関係者の技術向上の一助となればと開催したもの。

参加者45人は、構造設計担当者から免震構造の説明を受けたのち、免震装置が設置された現場を見学。質問も相次ぎ、参加者は真剣に技術を学んでいました。

バルーンに登録への思いを乗せて

天草・崎津春祭り



▶世界遺産登録への思いを乗せて放った風船

3月4日、河浦町の天草漁協崎津支所で「天草・崎津春祭り」が開催され多くの来場者でにぎわいました。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録推進イベントとして行われたもので、崎津の歴史を学ぶ「崎津アドベンチャー」やステージイベント、富津地区歩こう大会も同時開催。バルーンリリースでは、登録が実現するようみんなの思いを風船に乗せて空へ飛ばしました。

コンサート中の火災、どう逃げる？

避難訓練コンサート



◀観客と一緒に逃げる出演者たち(左)

3月5日、天草市民センターでコンサート中の火災を想定した訓練が行われました。施設の定期消防訓練と春の火災予防週間に合わせて企画されたもの。上天草市出身のシンガーソングライターMICAさんが歌を披露する中、火災を知らせる警報が鳴り響くと、観客はスタッフの誘導によりホールから非常階段を使って避難。消防はしご車を使った救出訓練や消火訓練などを行った後、コンサートは再開され歌声を楽しみました。

牛深ハイヤの歴史

牛深ハイヤ節が歌われるようになったのは江戸時代だと言われています。

その当時は船による海産物の商取引が盛んで、牛深には各地から交易を目的に多くの船が出入りしていました。それは、入り江が深く水深もあり、山が両岸に迫っていて風の影響を強く受けない天然の良港であったためです。



「ハイヤで今朝出した船はエー」

「この港にサーマ」

「入れたやらエー」

「ハエの風(南風)で今朝出港した船は、どここの港まで行き着いただらうか…」

「ハイヤ」は北上する帆船に欠かせない「はえんかぜ」が語源で、

ハエがハイヤになり、ハイヤとなったと考えられています。

古くから風待ち港としても知られる牛深港。牛深ハイヤの歌い出しには、南風に乗って出港した船乗りたちを想う牛深乙女たちの気持ちが入められています。

船乗りや女性たちが歌い踊っていたものが港から港へと全国各地へ広まってきました。新潟の「佐渡おけさ」や徳島の「阿波踊り」は「牛深ハイヤ節」をルーツに持つハイヤ系民謡の代表的なものとなっています。



「ハイヤ節発祥之地」の石碑

昭和50年4月には牛深乙女たちが船乗りの上陸を待ったとされる「新銀取り坂」(牛深ハイヤ大橋と通天橋の交差点付近)に「ハイヤ節発祥之地」の石碑が建立されました。



「天草写真大観」より

昭和初期の牛深港周辺の様子

※年表の写真は全て天草アーカイブズ所蔵

昭和47年「みなと祭り」から「牛深ハイヤ祭り」に名称変更し、4000人の道中踊りが実施される。



昭和48年の道中踊り (撮影: 佐々木正喜氏)



「写真集 牛深今昔」より

昭和58年の道中踊り。先導はハイヤ踊りの創始者の故・浦田智美さん



昭和61年の道中踊り

平成10年「輝けハイヤの競演」の実施で3日間の祭りとなる。

江戸時代 牛深の港ではハイヤ節が歌われ囃され踊られるようになる。

昭和21年7月27日 牛深町は大火で繁華街が全滅状態となる。

昭和23年4月 春の大漁と大火からの復興を祝う「みなと祭り」開催。これがハイヤ祭りの始まりと言われています。

昭和37年 初めて祭りで「牛深ハイヤ踊り」が披露。



「写真集 牛深今昔」より

牛深ハイヤ祭りの前身「みなと祭り」で初めて披露された牛深ハイヤ

昭和58年 船団パレードの実施。



昭和58年の船団パレード



平成9年 牛深ハイヤ大橋が完成し、橋の上で踊りを披露

加世浦の元ハイヤ

酒 盛りの場でにぎやかに歌い踊られたハイヤ節。牛深の加世浦地区に継承されている踊りが「元ハイヤ」と言われる踊りです。酒盛りなど宴の席で、男女が円座になり円の中でひとしきり踊ると周囲に座った人の首に手ぬぐいを掛けて引き出し、交代しながら踊ります。踊りに決まった振りはなく、調子(リズム)に合わせて手足を動かし自由に踊ることから「なつたが踊り」とも言われます。現在も、加世浦老人クラブには元ハイヤを保存継承する「えびす会」があり、牛深ハイヤ祭りでは「輝けハイヤの競演」で踊りを披露します。69歳から88歳までの会員22人が踊る元ハイヤ。酒盛り歌だったことが一目で分かります。



現在のえびす会

聴く民謡から見る踊りへ

昭和36年、牛深民謡保存会が創設され、保存会が中心となって「舞台踊り」と「道中踊り」が創られました。船の帆を上げた網を引いたりといった船乗りの所作が盛り込まれ、腰を落として踊るところは、揺れる船の上でのようすを表しています。この踊りの完成により「聴く民謡から見る踊りへ」と変化し、今日につながっています。

昭和45年には、国立劇場(東京)で行われた公演「日本の民謡」に同保存会が出演し、全国に知られるようになりました。平成18年には、「牛深ハイヤ保存会」と名称を変更。約100人の会員で稽古に励み、イベントへの出演や小中学生への指導などを続けています。保存会を中心とした50年以上にわたる保存・継承の活動により「牛深ハイヤ踊り」は天草を代表する伝統芸能となりました。

歌と踊りを1つの芸能として表現する「牛深ハイヤ節」は、平成4年12月に市の無形民俗文化財に指定されました。

第47回 牛深ハイヤ祭り (とき) 4月 20日(金)・21日(土)・22日(日)

〈ところ〉牛深町中央商店街一帯 (メインステージ・ハイヤ大橋横芝生広場)

- 20日 (金)**
- 牛深高校生などによる牛深ハイヤ大橋総踊り
…15:00～16:00 / 牛深ハイヤ大橋
 - 輝けハイヤの競演…18:30～21:30 / 牛深総合センター。入場料: 指定席。A席1,000円、B席500円。※入場券は4月1日(日)から同センター(月曜日休館)で販売。

- 21日 (土)**
- 牛深ハイヤ記念式典…11:00～11:30
 - マーチングパレード…13:00～14:00 / 牛深町中央商店街
 - 座ハイヤ…総踊り終了後。

- 22日 (日)**
- 漁船団海上パレード…10:00～。
 - 水産フェア2018 (牛深ハイヤランチ) …11:00～12:00。ブリ・タイ・マグロの刺身・あら煮など(先着700食分)。入場料500円。※入場券は22日午前9時から総合案内所で販売。

- 牛深名産ハイヤ市
[21日] 11:00～17:00
[22日] 9:00～16:00
 - お祭り野外ライブ
[21日] 11:40～18:00
[22日] 10:00～12:00
 - ハイヤ総踊り
[21日] 19:00～20:30
[22日] 13:00～14:30
- ※踊り講習会
21日18:00～、22日12:00～
(お祭り広場特設ステージ前に集合)。

祭り期間中は、各イベントごとに全面通行止めとなる区間があります。たいへん迷惑をおかけしますが、皆様のご協力をお願いします。

※雨天の場合は、状況に応じて実施します。



昨年のハイヤ祭り

伝統を引き継ぐ牛深乙女

【牛深高校郷土芸能部】

今や牛深ハイヤ祭りには欠かせない牛深高校の郷土芸能部。踊りのキレや躍動感もさることながら笑顔で楽しく披露してくれることから、ハイヤ祭の調子も相まって、見る人を元気に笑顔にするパワーがあふれています。

創部は昭和63年。今年31年目を迎えます。部員は3年次生7人、2年次生3人の合計10人。踊り手に加えて三味線や唄い手、太鼓も必要で、毎年5人くらいは新入部員を確保したいと言います。

部員たちは、牛深ハイヤ保存会から指導を受けながら、牛深ハイヤ祭の伝承・技術の習得に励んでいます。3月4日には、牛深歴史文化遺産の会の吉川茂文さんから話を聞いたり、元ハイヤを継承する加世浦老人クラブ「えびす会」の皆さんと交流するなどして牛深ハイヤ祭が生まれた背景や歴史なども学びました。

部長の桃根夏生さんは、「背景を知ることや歌詞の理解が深まりました。学んだことを踊りでも表現していきたい」と話します。

昨年12月、第28回熊本県高等学校郷土芸能代表選考会(伝承芸能)

部門)で最優秀賞を受賞した彼女たちは、8月に長野県で行われる全国高等学校総合文化祭(信州総文)への出場が決定しています。

「私たちの踊りを見たお客さまが元気になって感動していただけるような踊りをしたい」と意気込みを語る部員たち。

地元の伝統芸能を継承する牛深乙女たちの全国的な活躍は、地元を元気に与えるだけでなく、牛深ハイヤ祭のすばらしさや大切さを教えてくれています。

もちろんハイヤ祭りでは3日間とも出演します。潮風を受けながら地元でいきいきと踊る彼女たちの勇姿を見においでください。



昨年12月の選考会のようす